

第3回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験の歴史学習基本構想検討委員会 議事録

日時：平成22年 8月3日(火) 14:00～16:00

場所：明日香村中央公民館 研修室1・2・3

出席者：

<委員長>

平野 侃三 東京農業大学名誉教授

<副委員長>

三輪 嘉六 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館長

<委員>

足立 久美子 歴史街道推進協議会メインルート事業部課長

猪熊 兼勝 京都橘大学名誉教授

岡本 直之 三重交通グループホールディングス株式会社取締役社長 欠席

河上 邦彦 神戸山手大学現代社会学部教授

木下 正史 東京学芸大学文化財科学科特任教授

関 義清 明日香村長

八丁 信正 近畿大学農学部教授 欠席

増田 昇 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授 欠席

吉兼 秀夫 阪南大学国際観光学部教授

(敬称略、五十音順)

<協力委員>

建石 徹 文化庁文化財部古墳壁画室古墳壁画対策調査官

加藤 真二 独立行政法人奈良文化財研究所飛鳥資料館学芸室長
(代理出席者：成田 聖 飛鳥資料館学芸室研究員)

高野 一樹 奈良県地域振興部地域づくり支援課長
(代理出席者：田中 利亨 地域づくり支援課課長補佐)

宮原 晋一 奈良県教育委員会文化財保存課主幹
(代理出席者：小池 香津江 文化財保存課記念物・埋蔵文化財係主査)

西藤 清秀 奈良県立橿原考古学研究所埋蔵文化財部長

藤田 尚 明日香村政策調整課長

北浦 敬教 明日香村教育委員会文化財課長

三井 一男 高取町企画財政課長 欠席

杉平 正美 財団法人飛鳥保存財団事務局長

高村 幸夫 国土交通省近畿地方整備局建政部公園調整官
(代理出席者：川西 正洋 建政部都市整備課公園・古都係長)

<事務局>

国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所

所長 舟久保 敏

調査・品質確保課 課長 三井 雄一郎

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 体験的歴史学習基本構想(案)について(討議)
 - (2) その他
3. 閉会

議事録

1. 開会
2. 議事

(平野委員長)

大変暑い中をお集まりいただきましてありがとうございます。今から第3回体験的歴史学習基本構想検討委員会を始めさせていただきます。最初から申し上げておりますように、第3回が最終回と予定いたしております。そういう意味で、前回までの議論を踏まえて、事務局で原案を作ってきておりますので、それを説明してもらいまして、原案でございますから、それを更に修正するというを基本的に踏まえてさせていただきますので、忌憚のないご意見を頂ければと思います。

では、時間も限られております。まずは、基本構想につきましての討議に入りたいと思います。資料が三つばかりございますので、これを参考にしながら説明を頂きたいと思います。

(1) 体験的歴史学習基本構想(案)について

(事務局より資料1～3について説明資料に沿って説明)

(平野委員長)

ありがとうございました。今ご説明をいただいた点ですが、議論に入っていきたいと思えます。どこからでも結構でございますから、ご意見やあるいはご質問でも結構ですので、何かありましたらお願いします。

(猪熊委員)

これまで2回の検討会でいろいろとご説明があったわけではありますが、どうも具体的なイメージというものが文字と言葉で説得されてもまったく分からないのです。一つ分かるのは、キトラ古墳と檜隈寺の遺跡というものだけは分かるのですね。

ですから、私は一つの提案をさせていただきたいのですが、吉野ヶ里へ行きますと、拝殿の高床の建物がとてもシンボリックにあるわけです。ここでシンボリックにというと、どういう風にしたらいいかと思うのですが、一つは檜隈寺を完全に復元されて、そしてその塔を展望台にすれば非常によく見えるんじゃないか。あの地域にすれば、あの伽藍が見えたら、「ああ、あそこはキトラ古墳の地域だ、渡来人の地域だ」ということがよく分かると思うのです。そういう検討はできないものか。そして、建物は便益施設にお使いになったらいいんじゃないか、変な格好のものができるよりは、よほど歴史的な体験、景観というものが保てるんじゃないかと

思います。

(平野委員長)

はい、ありがとうございました。それができれば大変素晴らしいことじゃないかと思いますが、文化財としての史跡の発掘結果等における現在の段階で、そこまでの復元をして「いい」というようなものができるでしょうか。

(猪熊委員)

文化庁はそれを平城宮で実験的にしているのでありますので、私はそれを史跡であるからできないとは言えないと思います。

(平野委員長)

はい、ありがとうございます。今の課題ですが、今回の事業区域からは外れておりますね。そのへんが非常に難しいですね。

(猪熊委員)

けれど、最初に言ったように、中心的な史跡としてキトラ古墳と檜隈寺跡があるのですよ。そういったものを見せることが、歴史的な復元というものにつながってくるんじゃないかと。要するに、歴史的学習というものは、それを見て「ああ、渡来人はこういうものを造ったのだ」という学習、公園のそのものの目的に一致していると思います。

(河上委員)

体験学習館の実態がもうひとつピンと来ない。具体性に欠けるといえるか、猪熊さんが言われたように、私も同じような感想を持ちました。他の公園でこういう形で成功している例は何かあるのですか。普通、公園は造って勝手に使え、みたいな公園が多いじゃないですか。ちゃんとケアも含めてそういうことをきっちりやって、そして地元との関係とか、いろいろな意味で成功しているところはあるのですか。

(三井課長)

どこまでをもって成功するかということはあると思いますけれど、例えば資料2の15ページに体験的歴史学習のイメージということで、九州の国立博物館やその他の博物館であるとか、公園の中でもいくつか展開イメージで示しております。公園に特化するならば、29ページの左上の水田は、広島にある国営公園ですが、こういったものを参考にしたいと考えております。それから、ご説明が足りなかったのですが、資料3として、参考資料を用意しております。前段は近年の歴史的風土や文化財の保存に関わる動向ということで、関係の決定事項であるとか、報告書から抜粋した内容を記載させていただいております。世界遺産の関係や明日香村の活動団体を記載しているとともに、15ページ以降に飛鳥地方にある展示施設等の状況、あるいは21ページ以降ですが具体的なプログラムイメージを示しております。先程文言では触れましたけれども、この中でどういったものを扱うのか、24ページ以降ではもっと詳細に場

所と連動する部分を、そして27ページ以降ではこれらをプログラムとして重ねる、これは前回の委員会でもお示ししておりますが、こういった形での展開が考えられますということをご参考資料でまとめさせていただいております。

(河上委員)

まあいろんな所でいろんなことをやっていますよね。それは別に公園でなくてもやっているわけで、それがうまく成功しているものを、ここで総花的にやろうという感じです。そんなことで成功するのか、と僕はものすごく思っているわけです。

それから、これから体験館についていろいろなことを決定していくのでしょうかけれども、そのためにも、ここは非常に専門的な知識が必要となるわけですね。だから、ここにはいろんな意味での専門家が必要である。資料を見ていて、ちょっと抜けているのではないかと思ったのは、飛鳥のいろんなもの、例えば自然と動物とかね、飛鳥の民俗とか、そういう形のもの非常に弱いんですね。文化財だけでなく、そういう専門家もここには必要になってくるんじゃないか。そういう人が体験館の学芸員みたいな形で入られて、それからこれは提案ですけども、体験学習館会議みたいなものがここでやられて、イベントその他いろんなものを、毎年何をやろうかと相談するような会議があってもええと思いますね。

(平野委員長)

今の公園でやっている事例ですが、吉野ヶ里遺跡では、入って川を渡ってすぐのところになり大きな体験学習のスペースがあって、それが主体になって屋外での体験学習をやっているという実態があります。三内丸山遺跡も入り口のところに案内もできる体験スペースがある。基本的にはそれぞれの歴史公園の中に、こういった体験学習の施設をつくらうとしているわけですね。それぞれが対象とする史跡が違うわけだから、それぞれ違う形で展示させる、あるいは体験させていかなければならないのだと思いますね。

(木下委員)

猪熊さんの意見の一つは、視点場というか、地域全体を見通せるような場が必要ということがあったのではないかと。もう一つは、目玉になるような遺跡の表示というのが必要ではないかと、私はそんなふうに理解させていただきました。

前者のほうは、平坦地という問題があるかもしれませんが、地域全体あるいは檜隈の地域、高松塚等も含めたその辺の歴史的な風土、特殊性が体感できるような工夫があってもいいのかなと、そういう風に思いました。

前回出席していないので申し訳ないのですが、いくつかお聞きしたいこと、意見申し上げたいことがございまして、一つは歴史的な空間の取り扱い、これは飛鳥西南部というふうに理解したほうがいいのですか。

(三井課長)

基本的にはそう考えております。

(木下委員)

高松塚地区とは別地区という印象が非常に強いんですけど、そここのところに問題があると思います。キトラ古墳、檜隈寺跡、檜前遺跡群というだけではなく、高松塚地区を含めてこの地は陵墓の地であるという位置づけが必要ではないか。そうすると強調の仕方が変わってきますし、特にキトラ古墳の場合は、古墳が生まれてくるまでの経緯みたいなものに触れないで位置づけるというのは非常に難しい、片手落ちだと思いますし、そうなると高松塚地区と並ぶというか、ともにとりような、飛鳥西南部の地区という位置づけがもっと明確になったほうがいいのでは、ということです。それで、高取町のほうも現地案内では視野に入れておられますが、北の方の、例えば見瀬丸山古墳とか植山古墳、菖蒲池古墳はどうするのかという、歴史的な空間の捉え方が何というか、もちろん広いところを取ってあまりに網羅的に、盛り込みすぎにすることはないのですけれども、その辺の取り扱いが非常に難しいと言いますか、飛鳥西南部に特化しながらも、関連でどのぐらいまで位置づけていくのかということが、もうちょっと明確になってもいいのではないかと思います。

それから、渡来文化は非常に取り扱いが難しいと思います。飛鳥文化の中の渡来要素を取り上げていくと、飛鳥文化って何なのか、そこに日本的なもの伝統的なものはないのかというニュアンスに陥ってしまう。要するに、伝統の継承とか、渡来文化との融合だとか、そういった視点をもうちょっと明確にする必要があるのではないかと感じました。

それからもう一つは、飛鳥の魅力とはという点で、キトラ古墳の保存の歴史に加えまして、歴史的風土の保全の歴史的経緯との関わりを意識されていると思いますが、歴史的風土保全の源泉は、江戸時代からトピックとして取り上げることがいくつかあるのではないかと。本居宣長の時代以来、石舞台古墳の発掘とか、そういうものが前編になって、歴史的風土の保全という問題が現在目に見えるような形で出来上がってくるわけですから、そういった意味での先人達の蓄積みたいなものをもう少しきちんと位置づけられたらというふうに思います。

(平野委員長)

はい、ありがとうございました。今のお話で、飛鳥西南部と言われたのは、この地域をもう少し広く捉えるということですか。

(木下委員)

少なくとも、陵墓の地というニュアンスと、渡来人の居住地、本拠地という、どんなふうを意識するかの問題だと思いますので、もうちょっと広いエリアで捉えないといけないという意味です。

(平野委員長)

はい、ありがとうございます。

(猪熊委員)

今の木下さんの意見ですが、渡来人＝韓半島の文化＝飛鳥というのは、韓国の一般的なマスコミの受け取り方であります。まさにそういう風な、韓国のマスコミで言われているとおりの

ことが実現するのかなというふうに思っているのでありますけれども、そのへん随分注意しているんなことを考えないと、極端なマスコミの中には、日本の飛鳥の人々はゼロであった、無知であった、ところが韓半島から100%来たので、みんな韓半島の文化に染まってしまった、そういう理解を極端な人はするのです。私はいつも閉口しているのであります、木下さんの言われたことはまさにすばらしいものであると思います。

なお、キトラ古墳を皇族の墓だということを木下さんは言われたのですが、私は大賛成であります。

(河上委員)

この地区では、壁画と帰化人、渡来人と言う人もいるけれども、この二つが大きなテーマであるという話であったと思います。ところが、壁画は高松塚と分離されてしまっている。だから木下さんが言われたように、高松塚を無視してキトラで実現化できるはずがないんですね。その将来を考えておかなければいけないということと、それから、帰化人は、この間お話ししたと思いますが、帰化人の研究そのものがそれほど進んでいないので何も展示できないと、僕は言ったと思いますが、そういう研究が非常に大事である。むしろ、そういう研究者を集めて今からでもいいからやったらいいと思います。それから、ずっと(資料を)見ていて抜けていると思ったのは、石の文化というものです。石の技術は帰化人の技術であった可能性が非常に高いですね。この研究はもっと進められないといけないですけれども、まあ、この二つのテーマでいいんじゃないか。これ以上上げると大変なことになってしまうし、檀原考古学研究所とか奈文研の飛鳥資料館は必要なくなります。

(猪熊委員)

今の河上さんの意見を受けてですが、前回の最後のほうに、関村長が明日香村の展示施設を体験学習館の中に入れてほしいと意見されました。私はその意見は大変いいと思うのでありますけれども、考えてみますと、今、文化庁が管理をされるキトラ古墳の壁画館というものが計画されて、それは文化庁のほうの会議でキトラ古墳周辺地区に置くということが決定している、そのことを大前提として今日は議論をしているわけでございます。そうしますと、同じ文化庁の一つの役所が同じ地域で、同じ村の中で、同じ目的の施設を二つ造るわけなのであります。今、「仕分け」ということが議論になっておりますが、まったくこれは仕分けの対象になってしまうようなことではないかと思えます。そこで、仕分けされないためにはどうしたらよいかということでありまして、先程河上さんが「飛鳥資料館はいらんのと違うか」と言われたのでありますけれども、飛鳥資料館は設立当初から飛鳥地域のものを並べるのであって、明日香村や檀考研が発掘したのもも全て並ぶもので、管理するのは文化財研究所でありますけれども、本来の趣旨はそういった奈文研の展示場だけではなかったわけでありまして。しかるに、香具山の下飛鳥藤原京の調査部ができたときに、同じ文化財研究所の中でもう一つ展示室ができるという大変不思議な状況が起こったわけでありました。そういったことから考えますと、飛鳥資料館をこのキトラ地区に持ってきて、それが明日香村や檀原の研究所や高取町の人々の共同運営というのでしょうか、共通の成果を、「どこそこが掘ったものしか並べない」というのではなく、飛鳥のもの全体がここで見られるということは、来訪者にとって最大のことであろうと

思います。現在の状況が進みますと、発掘したのがどこの組織かを聞いて、そしてその展示室まで行かないといけないという、大変に来館者無視の展示施設になっているわけです。この機会にそういったことを十分に考慮して、村長さんが言われた場所へ、どこかまだはつきりしてありませんが、そこへ資料館を持ってきたらいいんじゃないかと思っております。そういうふうなことは、おそらく今の財政事情の中では難しいと言われるかもしれませんが、私はこの国営公園にいろいろな建物を造ってしまうよりは、そういう大きな建物を造ってしまえば、お客にとっても、全てにとってもいいんじゃないかと思います。

(平野委員長)

はい、どうもありがとうございました。せっかくですから、文化庁のほうから何かございますか。

(建石協力委員)

はい、文化庁でございます。いろいろと貴重なご意見をありがとうございます。今の猪熊先生のお話は、それぞれごもっともなことと思います。

まず、飛鳥資料館を今後充実させていこうというお話ですが、同じことは文化庁としても考えておりながら、なかなか実現できていないところです。これについては引き続き考えていきたいと思っております。

また、高松塚とキトラの話は、当然無関係に事業を進めるのではなく、きちんと連動して考えて事業を進めるべきと認識しております。その上で、今日の会議では、キトラの体験学習、体験学習館に関する部分が議題の中心になっているものと理解しています。前回の会議でもご説明申し上げましたが、文化庁側の検討会でも、未だ高松塚については壁画の最終的な行方が決まっておりません。少なくとも今の状況で壁画を現地に戻すということは難しいのではないかとこの話はいくつかの議論の中で出ておりますけれど、最終的にどうするのかということにつきましては、石室壁画時に決めた「当面は外に出して修理する」という話と、「環境が整うのであれば戻したい」という話まで議論が止まっております。昨年度末に壁画の劣化原因調査報告を出しましたので、おそらく今年度以降、話が進んでいくと思います。その進捗も随時ご報告しながら、両省庁間、あるいは奈良県さん、明日香村さんとの連携のもと、両古墳壁画の保存に関する事業を進めていきたいと思っております。高松塚とキトラをまったく別に考えているのではないということだけ、お話させていただきました。以上でございます。

(平野委員長)

はい、ありがとうございました。具体的な展示に関しましては、今のご指摘のように、それぞれの連携を取りながら、今後検討していくことになると思います。キトラはキトラですばらしい資源を持っている。その核のものは決まっているという前提です。ただ、今でも私が気になっていますのは、そういうものを全部集めてきて保存機能まで体験学習館で持つというのはおそらく不可能ではないでしょうか。参考資料の中に、15ページですか、既存施設がいろいろ書いてあります。そういう既存施設の中でそれぞれにいろいろな展示をしておられる。それらと連携を取りながら、こちらからも情報発信する、あちらからも発信してもらう、そ

う連携がまず第一です。その上で、どこまでの展示物をここに持ってくるかは今後の課題として残るのかと思います。連携は常に十分に取ってほしいと思います。

(三輪副委員長)

今、委員長もおっしゃったとおりでして、今日のこの会議は体験的歴史学習というものがこれでいいかどうかということだと思うのですが、基本的には、非常に抽象的な言い方で恐縮なのですが、やっぱり「生きている歴史公園づくり」と申しますか、飽きの来ない、そのためには新鮮さが要求されると思うのですが、やりっぱなしではなくて、成功するかしないかというのは先程からいろいろ議論がありますが、管理とリフォームがしっかり対応していけるかという、そこに尽きると思います。そういう点では、常に生きている歴史公園だという視点、そのためには、非常に大事なものは、各地区、今回全体としては五地区なのですが、キトラ古墳周辺地区といっているものの中にも、しっかりとした目玉を一つか二つは必ず持ってくる、つまり目玉をつくっていくということです。これは変につくりものとしての目玉ではなくて、やはり生きている目玉、これが一体何かというのは、それぞれの地区の状況によって違うことですが、やはりそういうものをしっかり展示していくという、それがユーザーにとっては飽きの来ない、またいつ来ても楽しめる、そういう部分につながる、常に新鮮さにつながると私は思っています。

それで、冒頭で例えば猪熊先生が非常に刺激的に復元でもしてあっと驚かしたらどうだと、これは確かに一つのアイデアです。にわかには実現するのは、現実的な話としてなかなか難しいのすけれども、ただそういう考え方をつぶすのではなくて、今詳細に見てましたら、例えば15ページのコンセプトイメージの中に、これは池内研究室ですかね、バーチャルの取り組みが出てますけれども、こういうものを遺跡の全体のどこかの目玉でうまく使うと、ものすごく技術が進展してますから、メガネをかけてみるだけで風景の中に建物が立体的に立ち上がってくる部分がいっぱいあるわけです。仮想の世界とはいえ、現実性のある程度高めながらそういうものをどう活用していくか、これはまさにこれからの新しい手法であり目玉になってくると思います。そういう工夫と、それから展示館などでも、描いてあるのを見ると、ガラスケースの中に入れてある、それは博物館的にはうれしい話かもしれませんが、もっともっと開放的にやったらどうだろう。そう言いながら一方ではハンズオンなんかも出してある。超一級品をケース外に取り出して皆さんの前にどうぞとさらけ出すのは現実的でないことは分かっていますが、例えば飛鳥の展示館に来ると、これまでになかったような展示があるよと、それは手法の話で、例えばの話ですがケースなんかに入れてなくて見られるようになっているとか、そういうちょっとした工夫が新鮮さにつながる、その新鮮さにユーザーが、これは想定で30万と書いてありますが、私はその30万の根拠が何かは全然分かりませんが、まあ30万でなくて50万、100万に繋がってくる話だと思います。

そういうわけで、私は今回の基本構想案は非常に盛りだくさんではありますが、よくできていると思います。ただし、総花的だと思う部分はありますので、目玉はもっと強調していく必要があると、そんな印象を持ちました。

それから、もう一つ大事なことだと思うのですが、どのような構造でどのように地域を改善していくかという話は、公園づくり全体で出てくる話だと思いますが、第一回か二回で述べた

と思いますが、この地域も含めて世界遺産の大事な候補地の一つになる、そして世界遺産の求めてくるものはオーセンティシティーだと思うのです。そこあまり競合してしまうわけにはいかないだろう、基本的にはオーセンティシティーをしっかりと遵守しながら地域の構造をこの場になじみのあるような形に持っていくことが、世界遺産に登録されていく大きな手段だと思います。この地区の整備、あるいは公園づくりというのは世界遺産と無関係であってはならないと私は思います。今の世界遺産の状況から見てですけれども、世界遺産構想も視野に入れた整備のあり方を大事にしていきたい。そのためには何かというと、リサーチしていただければわかると思いますが、例えば、中尊寺や毛越寺は非常に苦心惨憺している。それがいいかどうかはコメントする話ではありませんが、そういうところの成功例、失敗例、あるいは経験例、そういうところをもっとリサーチして、飛鳥でそれをどう応用していくかといった取り組み方を検討する必要があるのではないかと思います。

私は全体的に、今回の基本構想は、だいたいこれまで議論されたことが良く盛り込まれていると思います。ただし、メニューが多すぎる。本当にやろうと思ったら大変だなと。ここから取捨選択するのは更に大変。だからこそ、繰り返し申し上げますけれども、しっかりとした目玉作りをとということを提案したいと、そんなふうに思います。

(平野委員長)

はい、ありがとうございました。

(吉兼委員)

私のほうは、少し誉めなければいけないと思うのですが、いつも構想で議論を交換しているのは、つくり上げていく公園なんだということは盛んにおっしゃっていて、全部できてからみんなに教えるのではなくて、これから数年かけて地域の方々も含めて参加しながらつくり上げていくという点に大きな魅力を感じております。

それから、渡来文化の問題は専門ではなく分かりませんが、これまで渡来文化というものは飛鳥の中であまり取り上げられてこなかった、それを取り上げようとするのは、いい面、悪い面あると思いますけれども、それを取り上げようとしている点に興味を持っていました。それから、体験的歴史学習ですかね、そういったことも他の四地区では行われておりませんので、そういったことにそれぞれ興味を持っておりまして、これを進めようということについては、大いに評価できるかなと思います。

30万というのがどういう数値かは難しいですけれども、その大半は観光客と呼ばれる方なのではないか。そういう方には、先程から何度も出てまいりましたけれども、「何気なく訪ねて、否応なく理解する」ようなものでないといけない。分かる人だけが分かるようなものではなく、何気なく訪ねた人が「ああ、そういうことだったのか。キトラ古墳ってこうだ、高松塚古墳ってこうだ」、「渡来文化ってこういうことだったのか、我々は誤解していたわ」とか、「飛鳥ってこういう意味が日本にあったのか」という、分かりやすさというものを必要とするんだろうなと。それで、それを分かったのか分からないのか、それが分かりやすいかどうかを評価するのは、やっぱり観光客じゃないのか。つくり上げてしまってから「さあ見なさい」ではなく、これから開園までの長い期間の間に、そういう社会実験も大いにやってほしいなと思います。キ

トラ古墳の周辺だけでいいはずのものを、これだけ広い土地を買収して公園にするということで、それができる環境をつくっていただきましたので、そういうことが是非あったらいいなと思います。

渡来文化については書かれてはいるんですけども、何をされるのかイメージがちょっと分からなくて、質問したいなという心があります。

それから、地元に住んでいる者にとって、国の公園というのは「入ってはいけないのか」、「中で何かしてはいけないのか」と、段々とハードルが高くなっていく心配がありますので、これまでどおりハードルを低くして、地域の方、地域というのは明日香村に限りませんけれども、地域の方と飛鳥ファンの方と交流ができる公園であってほしいなと思います。最初から申し上げておりますけれども、皆さんおっしゃっていると思いますけれども、飛鳥なのだから「飛鳥方式」として、今までにできなかったことをここで「飛鳥方式」として行って、様々なルールをつくり上げていって、日本中にある様々な大きな公園の見本になっていただきたいと思います。

(平野委員長)

ありがとうございました。

(河上委員)

ちょっと気になったところがあります。このキトラ古墳の公園の中で道路が走っているわけですね。その道路は公園を利用する人達にとっては非常に危険な場所になりませんか。一部はおそらく上にこういう橋になると思いますけれどもね。飛鳥の他の公園でも、道路やその横にある史跡、これは自動車で来る人を考えているんですね。そのおかげでどうしても必要な駐車場がある。でも私は自動車で来なくてもいい公園という発想がどこかにあってもよかったんじゃないかと思ったりしてるんです。何しろ、駐車場にものすごく面積をとってしまって、ちょっとおかしんじゃないかなという気がしたんですね。まあ、今更おやりになるというのではなくて、そういう話もあったという記録が残ればいいと思いますが。

それから、先程の吉兼先生のお話を聞いてちょっと思ったのですが、飛鳥に学生を連れてきて「飛鳥どうやった」と聞くと、必ず「畑と田んぼがあって、田舎の風景やった」と言うんですね。公園の中の畑や田んぼの部分はなくしてもいいんじゃないかという気がしてしょうがない。例えば、公園の中に田園環境保全ゾーン、これは棚田を残そうという考え方だと思うのですが、そんなものなくてもいいんじゃないですかね。公園の中に田舎を作ってもしょうがない。他の利用法ができると思います。石舞台古墳のところの公園がですね、公園の中にわざわざ畦を全部残したんですね。畦を残したおかげで、段がいっぱいあって、使いにくい公園になっていますね。まあ環境保存は大事だと思いますが、あまりそれに縛られると、おそらくみんなが来てくれて使い勝手のいい公園はできないのではないかという気がしてしょうがないです。

(平野委員長)

はい、事務局のほうでいかがでしょうか。

(三井課長)

はい、今河上委員からご意見いただいたことも、それ以外のこともまとめて、一部お答えをしたいと思います。

道路に関しましては、23ページの図面を見ていただきますと、確かに公園を分断するような形で走っております。高松塚周辺地区でもそういう場所がございます。それはもちろん安全に配慮した形で整備を進めていくということで、歩車分離というのでしょうか、園内で遊んでいただく方とそうでない方を分けるようにする。ちなみに駐車場でいきますと、右手のオレンジ色の下の部分ですね、ここに駐車場が来ていて、それから左側の情報案内施設という紺色の部分がございます。この左下に駐車場がございますので、こちらに停めていただいて、園内は基本的に歩いて、という形でご活用いただければそんなに危険ではないかと、もちろん安全に留意して整備を進めていく形になるかと思えます。

それから、今の河上先生のご意見の中で、田園環境の部分、水田の部分がなくてもいいんじゃないかというご意見がございました。先程から総花的であるというご指摘を頂いているものの、文化財だけではなく、やはり飛鳥の歴史的風土であるとか農業の部分というのも、一定お示しをしたいというか、きっかけとなってほしいということで、この田んぼの部分全てを使ってここで活動をしてほしいというのではなくて、ここはあくまできっかけになって、それから村内で展開するような、例えば体験農業をされているところがありますけれども、そういう所に広がっていくようなきっかけになってほしいという程度を考えております。これで全体を網羅させるというのではなく、一つのきっかけとして、維持管理施設と田んぼが機能してくればと考えております。そして、それは一つのテーマとしても位置づけをさせていただいているものなので、必要かなと考えております。

それから、これまで頂いたご意見の中でいくつかあったわけですがけれども、猪熊先生、河上先生、木下先生からも頂いております。渡来人の話、そして西南部のとらえ方の話です。渡来人の研究がまだまだであるというご意見があって、これは前回の委員会で所長からも説明させていただきましたけれども、正直言って専門家でもないの、そのの所はまさに先生方に教えていただきながらということにはなると思っています。ここまでは研究が進んでいる、ここはまだ分からないんだと、分からないところは分からないとして、お示しをするのが真摯なやり方なのかと考えています。まったく0なのか100なのかということではなく、ここまでは分かっている、ここからはまだ分からない、あるいは想像の世界でこんな案もあるというのが一つの示し方ではないか。また先程、バーチャルの話が出ていました。復元をすればなかなか壊すことはできないけれども、仮想現実であればいくつかの示し方ができたりするんじゃないかと、イメージ的にはそんなことを考えております。

それから、西南部のとらえ方に関しましても、少し逃げているようで恐縮ですがけれども、もちろん高松塚とまったく関連がないわけではないのですから、例えば展示の中で比較をしてみるとか、そういう示し方もあるでしょうし、あるいは陵墓としてということで、高松塚とキトラが一体的な区域の中にあるのであれば、展示の中でどのように具体化をさせていくかというところが大事なかなと思えます。

それから、根本的なところで、渡来人から来た技術であるとか文化であるとかを単純に取り込んだ形ではないかというご指摘がありましたけれども、これは前回もご意見を頂いてご説明

をいたしました。まさにそういった技術や文化をどのように受容して変容させて、我が国のものと合わせてどういう風にしていったかという点をきっちり示せるかというのが一つの答えかなと考えております。資料の中でも分かりづらかったかなと反省をしておりますけれども、展開するプログラムのイメージとして18ページで体験的歴史学習の分野と項目というのがあって、この分野に「渡来人のもたらした技術・文化」というのがありまして、この中の「技術・文化」に「国づくりへの寄与」という項目を入れております。これが、まさに来た文化を単にそのまま使ったというのではなくて、これを国づくりにどう生かしていったか、交流させたかというところなのかなと考えております。お示しできなかったというか、表現しきれなかったと反省しておりますけれども、そういったところでご理解いただければと思います。

それから、三輪先生、吉兼先生からご意見をいただきました目玉が必要というところと、観光客がほとんどなのではないかというところです。一つのことに気づいていただいて、他のことにも興味を持っていただくということがこの地区の体験的歴史学習の考え方なので、確かに一つ目玉的なものが、一つというかそれぞれのパーツで、これは魅力的だと思うものを用意しなければいけないということが、ご意見頂いてよく分かりました。そして、こういったものを観光客に、受けるという言い方は非常に軽い言い方になってしまいますけれど、受け入れられるものも必要でしょうし、修学旅行生などある程度勉強してきた子達に受けるものも必要なんだろうというふうには思います。これで答えになっているかどうか、非常に恐縮ですけれども、頂いたご意見に対してお答えしました。

(平野委員長)

はい、ありがとうございました。

(猪熊委員)

キトラ古墳が造られた頃に、飛鳥の文化、それから渡来人の文化がつくり上げた檜隈寺は、まさにそういった意味での渡来人の記念碑でもあると思います。そういった意味も最初にあったのであります。

それから、先程の道路際の話であります。地図を見ておきますと、キトラ古墳の地域の道路際の所だけが民有地なのです。それはいろいろな思いがあるのだらうと思いますけれど、高松塚の事務所のある向かいに、茶屋の氷やらの旗があがっておりますが、そういうことが将来予測されるのでしょうか。何とかそういうことがない方法を講じてほしいと思います。

(平野委員長)

それは事務局から答えられますか。

(三井課長)

民有地でもあるので、地元との連携、明日香村や奈良県との連携も必要かなと思いますけれども、良いか悪いかというのはそれぞれご意見もありますでしょうし、そういう風にはならないようにとは思うところでもありますので、連携が必要かなという風に考えます。

(猪熊委員)

高松塚でも失敗されているわけですし、高松塚をきれいにしてくださったら、ああなるのかなと私は思いますけれども、あれを習われるわけでしょうか。

(三井課長)

もちろん習うわけということはないです。ご相談したいとは思っています。

(平野委員長)

ご心配なことがなるべくないように、今後地元との調整を図りながら、公園の中だけの議論ではなく公園の外側についてもカバーできるよう、地元の方によく訴えながら進めていくことを期待したいですね。それでも飛鳥は他の地域に比べると全体を特別保存地区で占めておりますから、まだまだやりやすいほうだと思います。

(木下委員)

先程から話題が檜隈寺とキトラ古墳ですが、これは史跡地で管轄は文化庁ということですが、公園全体の中にあって大きな目玉であります。特にキトラ古墳は、今キャンパス部分の剥ぎ取りをやっているわけですが、これが終わった後、どんな経過で原状に復するのか。前の空調室の取り扱い、そのへんと公園の運用開始がどんな感じに関わるのか。それから、檜隈寺については、おそらく今のまま置いておくわけにはいかない、何らかの形で再整備を図らないといけない、そういうことを考えていく必要がある。そこらへんと先程話題になっていたような建物の復元等を含め、具体的な検討に入っていかなければいけない時期に来ていると思いますので、その辺の現状について教えていただけることがあったら、今日文化庁からいらっしやっているので、お願いしたいと思います。

(建石協力委員)

キトラ古墳では壁画の剥ぎ取りを進めているところです。現在、図像の部分につきましてはほぼ剥ぎ取り作業が終わり、余白の部分の剥ぎ取り作業を進めているところです。ただし、表側からは見えないのですが、もしかしたら泥の下にまだ図像の一部が隠れているかもしれないところが何箇所かございまして、まだ、「図像の全部が取れた」とはなかなか言い切れないところがあります。作業のほうはおそらく来年度くらいまでかかるかと思います。順調に取り終えることを前提としまして、それ以降の作業の予定をお話いたします。

高松塚古墳でもそうでしたが、キトラ古墳でも石室床面に重要な考古学の情報、例えば棺をどのように置いたかとか、そういうようなことに関する情報がまだ隠れている可能性がありますので、壁面の剥ぎ取り作業が終了次第、速やかに石室床面の考古学調査に入りたいと考えています。おそらくそれは1日や2日で終るような調査ではなく、かなりの時間を要すると思っております。

それが終了しましたら、床面の漆喰を外すのかどうかという議論を、文化庁の検討会で検討する必要があると思っています。床面の調査成果を踏まえて、剥ぎ取るべきなのか、あるいは現地に残したほうがよいのかというようなことを議論いたします。いずれにせよ、その後は、

石室内へのアプローチが極端に減ると予想されます。少なくとも石室の外で壁画を修理している間は、文化庁等の管理者が石室内にはほとんど入らない時期となると思います。

現在、古墳の南側に、石室に入るためのかなり大きな建物を設置しておりますが、この段階で、あの建物を外します。当然そのときには考古学的な調査が入る可能性がありますが、その上で、平成28年に計画されている国営公園のオープンまでの間に、墳丘周辺について何らかの整備をして、公園と一体として、一般の方に見ていただけるような形にするところまでが、直近の課題でございます。

ですから、平成27年度までに、今申し上げた一連の作業をやるとなりますと、今年度くらいから本格的な動きをしていかなければならないと思っています。

キトラ古墳の発掘は、過去に2回大きな調査をしております。明日香村で行われた調査と、文化庁、奈良文化財研究所、橿原考古学研究所、明日香村の共同調査と、大きく2回。その2つの調査の図面を一体として合成するようなことを、今年度事業として計画しております。それを見て、今後の古墳周辺の整備計画を文化庁の検討会の中でお諮りし、来年度以降の事業を進めていこうと考えています。キトラ古墳の特別史跡の範囲は文化庁の担当ということで、国土交通省の公園計画の資料では白抜きになっておりますが、当然、キトラ古墳は、この公園の中で一番重要な場所と文化庁でも認識しております。檜隈寺も同じことですが、前回の会議でも猪熊委員からご指摘があったと思いますが、白抜きというのは全く別物ということではなく、公園と一体として両省庁間で齟齬がないよう詰めていきたいと思っております。

(平野委員長)

いずれにしても、いろいろな発見が今後も続いて出てくるであろうというのは、大変大きな期待でもありまして、公園の魅力にもなっていくしますので、常に新しい情報で生きた歴史展示ができるような体制をつくっておく必要があるだろうと思います。

(足立委員)

今、おっしゃったことと、それから先程吉兼委員がおっしゃったご発言に続くと思いますが、いろんなことが発見されたり、これからいろんなニーズが出てきたりすると思います。そうしたときに、こういう施設を育てていくときに大切なのはそれに対応できるかどうかということだと思います。持続可能性というのは、是が非でも守るということではなくて、いろんな変化に柔軟に伝えていくことが必要かと思えます。そうしたときに、当初はこう思っていたけれども、時代からいくと今は違うなということに対応していけるかどうか、極端に言えば、これはやめてしまってもいい、新しいニーズにどう応えるかということに対応していけるかということも大切なことなのではないかと、皆様のご意見を伺っていて実感した次第です。

それと、いろんな機能が書かれておりまして、また増えるかもしれないし、これは必要ないかなと思われる機能が出てくるかもしれないし、という中で大切なことは、機能を並べるのではなく、機能をどう機能させていくかが最も大切なことなのではないかと思えます。失礼な言い方かもしれませんが、縦割り行政みたいに機能がポンポンとあって、横のつながりも何もないというのはだめかなと思っておりまして、機能同士がどのように有機的につながっていくのかということも合わせて考えていくことになるだろうと思います。そうしたときに人材育成

機能というのが単独でポンとあるのではなくて、体験学習機能を考えていくときには、どういう人材育成かとか、機能をどう機能させていくかというときの、こういう視点で見られる人材というものも必要になっていくだろうとか、いろんなことが出てくると思いますので、そういった視点も必要かと思います。

それと、いろんなエリアが区分されているが、これは都市計画でいうゾーニングということなのかもしれませんが、ここは エリアだから、これだけということではないと思います。エリア間の関係性というのも出てくると思います。一つ一つの点ではなく、線、面としてどのように捉えていくかということも必要だと思います。そうしたことを考えたときに、変化し続ける公園のあり方というのが見えてくるのかということがありますし、これは吉兼委員が言っておられたように、いろんな方の参加で育てていくということなので、そういうことができている公園なのかなと気がしていますし、それが他のところと大きく違うところかなと思いますので、いろいろ難しい問題も出てくるかもしれませんが、頑張っってやっていっていただいて、本当にそれが飛鳥モデルということにできたらなと思います。

(平野委員長)

本当にその新しいニーズに応えられるように、常に変化できる体制で行うこと、やはり管理運営組織をどのようにしてくかが基本であると思います。それが、ガチガチの組織になってしまいますと何を言っても結局は上手くいかないということになってしまいますので、いかにそれが融通が利いて、ここに書いてあることが実現できるような体制を組んでいくか、今の時点では、組織そのものについては書きづらい点があると思いますが、ここに書いてあるような管理運営に対する考え方が今書けるとしたら限界なのかもしれませんが、今後の課題として、組織体制を融通性のある生きた組織にするか、是非考えてほしいと思います。

(河上委員)

2つの施設の整備の問題ですが、キトラ古墳の場合は、あまり問題はないと思いますが、古墳の形が多少問題になるだろうというくらいで。ところが、檜隈寺は実は主要伽藍の一部だけが史跡で、まだ史跡になっていないところがありますね。そういう部分はどうなのか。中には道路がいっぱい走っている。それから檜隈寺は於美阿志神社が鎮座しているわけです。あの神社は日本の神様ではないらしい。あそこにあることは大事なのですが、あれがあることによって整備ができにくいということになるわけですね。あの神社を少しだけでも移動してもらえないかということを考える。神社を移動するのは簡単なことです、遷座すればいいだけのことだから。そういうことも考えて旗を掲げられたらいいなと思います。それから周辺には1、2軒民家があったと思います。これは無理だと思いますが、民家の移転も考えてみたらよいと思います。

(猪熊委員)

確か、ここにも書いてありますが、あの神社は後である場所に移ったのでしょうか。道路の西側だったと思います。

(河上委員)

地元が納得するかどうかです。

(猪熊委員)

移転させるのではなく、元に戻すのです。

(河上委員)

もっと遠くに移転させるほうがよい。

(三輪副委員長)

先程、委員長からも発言がありましたが、私はこの計画が本当に進んで行くには32ページにある管理運営が一番基本の問題だと思います。管理運営がしっかり作動しないと、全てが絵に描いた餅に終わってしまいかねない。そう考えますと、もう一つは管理運営というのは少し長い目で見ますと、村の活性化につながる問題の一つでもありますし、そういう視点はしっかり打ち出しておく必要がある。村の産業といっても、関村長からお話ありましたが、特別大きな産業があるわけではありません。村の活性化が公園整備の中でどのようにあるべきか、しっかり模索していく必要が管理運営計画の中に大きく、本来取り込んでいかなければならない、そういう課題だと思います。ここは今の段階では出しづらいので、大義名分でしか書かれておりませんが、是非この中で、市民への取り組み方といいますか、管理運営を市民に任せるとい言い方ではありませんが、しかし、市民が参画できるようなあり方を模索していくことが、全体の活性化にもつながる話ではないかと思えます。各地の例えば吉野ヶ里遺跡もそうだと思いますが、活性化している要因、単なるボランティアとしての参画ではなくて、管理運営の中核の部分はどう占めていくかとかです。不可能な部分もあることは十分承知しておりますが、アウトソーシングも含めてそういうやり方の中どう展開するか、あるいはNPO等を導入しながら展開するとか、そういった幅広い中でアイデアが出てくるのではないかと考えておりますので、是非、管理運営方針を将来の計画で重厚なものにしてほしい。それを期待しています。

(西藤協力委員)

この公園の中心的な役割を担う体験工房ですが、お寺の周辺には、お寺を修繕する工房も存在したでしょうし、本当にここに持ってくるのか、他の時代の遺構もありますし、場所は考えていただいたほうがいいのではないかと思います。ここに工房があったかのように誤解を招くというのなんだろうと思えますので、考えていただければと思います。

(平野委員長)

ここが、というのは、絵に描かれている場所がということですか。

(西藤協力委員)

そうですね、今の記載されている場所が本当にそうなのか、設置場所を再検討されたほうがいいと思います。大体、お寺の周辺に工房は多いものですから、本当にあったかと思われる人

も出てくるかと思えます。

(三井課長)

計画、設計段階で、それぞれの配置というのは課題になっていくのかなと36ページの課題の中でも施設の位置、動線計画の見直しということは記載しておりますが、今、図面の中にも、発掘の状況によって位置が変わる可能性がありますとお示ししてありますので、檀原考古学研究所、文化庁、奈良文化財研究所、教育委員会とご相談をしていきたいと思えます。

(平野委員長)

今後の発掘の状況との関連を踏まえ、十分に連携をとって場所を決めてほしいと思えます。

(関委員)

いろんなご意見を頂いているようで大変ありがたいという思いをいたします。まず、この構想等々につきまして、概ね賛同いたしているところであります。ただ、先程三輪先生からお話がありましたように管理のところで、飛鳥の国営公園全てでお金を取っている所は、外部の管理者が入ってお金を取っている。そういう施設等ができて、歴史的風土の保存という大義名分が一番の重荷になっていたわけですから。キトラ古墳周辺地区の場合は地域住民そして明日香村が活性化できるために、いろんな意味で国民の皆様方等々から浄財を頂けるような形のものがあるべきであろうということで、当初からこういう構想を練っていただいていたのでありますが、有料とも無料とも何とも出てこないものですから少し心配していて、私のほうから言わせている云々ということではなく、飛鳥保存財団もありますよということも提示しておったのに、一向に出てこないということも心配しております。

そしてまた、この地区だけが初めて活性化に繋がるものをつくってほしいという中で、当初から国のほうにもお願いしていた経緯もあったのです。しつこいようですが、どういう管理運営をされるのか、それによってかなり建物とかいろいろなものに影響してくると思うので、お願いしておきたいなという思いがいたします。

あとは、皆様方からご意見を頂いているので、私のほうからは申しませんが、キトラ古墳の位置から体験学習館へ行く動線はつくれると思うのですよね。ところが、駐車場からどういう動線で道を渡るのかというのはもう決まっていますか。

(舟久保所長)

地下道を通ることになっています。

(関委員)

ということは、いったん駐車場から降りて、体験学習館の下の通路を通して、そして体験学習館へ行って、それから古墳のところへまた上って行って、ということですか。

(舟久保所長)

駐車場の所と体験学習館の所は高低差があり、地下道の所は平面的にはほぼ変わらない形で

入っていったら、体験学習館自体は複層階にすると上の階に上がる形になるのですが、一方で道を挟んでキトラ古墳の前の所はまた少し低くなっているんで、キトラ古墳自体をどう見られるのかという点で少し動線の組み方を考えないといけないと思いますけれども、キトラ古墳を見られる広場まではそれほど高低差なく動線を組めるのではないかと考えています。ただ仰られた通り、これから施設を細かく見ながら動線を考えていかなければならないのは確かです。

(関委員)

人間の心理として、目の前にある村道を渡れば駐車場へ行けるという中で、もう一回戻ってまた地下道をくぐるのは、ちょっと不自然だなという気がします。そこらへんを地下道は体験学習館のところでの、約30mの幅で村道の下を通るということをお聞きしています。そういったところをもう少し考えていただいたらいいかなと考えております。

それから、文化財の展示とかいろいろなことについては、先程からいろいろご意見あったのですが、私は明日香村の文化財の遺物については飛鳥資料館、万葉文化館、このキトラ館、地域地域で展示というかイベントで使っていただければ一番ありがたいと考えております。そういうエリア的なことで分けるのか、まあエリアで分けるほど飛鳥の遺物は単純なものではないと思いますので、時代的なところもあるかと思えます。我々は明日香村の中で文化財課を維持するだけでも大変なものなので、これからまた埋蔵文化財センターをつくってそれを維持管理するのも大変なことだろう、遺物はどこを掘っても出てくるものですから、県、国等と一緒にやらせていただければ一番ありがたいなあと思えます。できるだけうまく考古学の先生方と協議した上で、そういうものも展示できるようにしていただけたらありがたい、これはキトラだけじゃなく万葉文化館、飛鳥資料館等も考えております。そういうことによって、明日香村全村に向かっての誘客というか、皆さん方に来ていただき、動いていただける施設になるのかなと、そういう思いがしますのでよろしくお願いします。この計画については、私としては概ね賛同したいと思います。以上です。

(平野委員長)

はい、ありがとうございます。他にご意見ございませんか。だいたい時間も来ているところでございますが、おそらくここに書いてある計画をできる限り皆さんのご意見に沿って実現していきますと、30万なんていうものじゃなく、もっと人が来てくれないといけないし、おそらく来るであろう、来るような施設の計画や運営、展示をしていくことが大事なんだろうと思えます。いかがでしょうか、最後にもう一言という方がございましたら、時間は来ておりますが、よろしゅうございますか。

(関委員)

すみません、もう一言だけ。先程足立委員からお話がありましたが、やはり変化に対応できるようにしてほしい。飛鳥資料館は当初は10万くらいの入館者で、万葉文化館もそれ以上だったと思います。まあこれも1/3くらいの入館者になっているということなので、私はじっとしていたらますます入館者は少なくなるだろうという思いがします。特に昔と違って、世の中の変わりばえが早いので、溺れないようによろしくお願いします。

(平野委員長)

はい、ありがとうございます。いかに運営管理が大事かというお話がたくさん出たと思いますが、よろしゅうございますか。では、時間も参りましたので、今日は大変貴重なご意見をたくさん頂きありがとうございました。

基本的には現案に賛成いただいているということで、理解させていただいております。それぞれの方からご意見がありまして、そのご意見に対して、どのように対応して最終の案の中に書いていくかということにつきましては、この場でお話いただいたことあるかと思いますが、場合によっては皆さんにもう一回、個々に事務局からお伺いする場合もあるかと思いますが、けれども、そのときはよろしく対応していただければと思います。最終の内容につきましては、恐縮ではありますが、私に一任させていただきまして、検討会を閉めたいと思いますが、よろしゅうございますか。

(一同より了承いただく)

3. 閉会

(三井課長)

皆様、長時間ありがとうございました。閉会にあたり、公園事務所長であります舟久保よりご挨拶させていただきます。

(舟久保所長)

各委員、協力委員の先生方におかれましては、お忙しい中ご出席いただき、本当に熱心なご討議、最後まで非常に活発なご意見を頂き、ありがとうございました。基本構想については、今しがた平野委員長からお話があったように、本日頂いたご意見を踏まえて、できるだけ早くにとりまとめを行いたいと思います。各先生方には適宜ご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

これから修正等ございますけれども、本日先生方に頂いたご意見については、これから中身を詰めていく上で必要なこと、注意事項等をいろいろお話いただいたなと考えております。基本構想ということで総花的に書きすぎているのかなというのはご指摘の通りなのですが、これまで3回の委員会によって、何をどのように行っていくのか、これから細かく詰めていく中でどういったことを考えていくのかについて、各先生方のご意見をいただいた上で、一定の方向性を提示できたのかなと思っております。感謝申し上げます。

一方で、今日もご意見いただきましたように、実際の実施に向けてはかなり詳細に詰めていかななくてはいけない、三輪先生から美辞麗句だけではいけないよとお話いただきましたけれども、実施のためにはこれからどういったことを行っていくのかということをもっと具体的な話を詰めていかななくてはならないと考えております。今年度下半期からは計画段階、翌年度以降には設計段階という形で、現在平成28年度の開園を目標として整備を行っていることもありますので、順繰りに熟度を高めた検討を行っていきたく思っております。その過程にお

きまして、各委員、協力員の先生方におかれましては、おおもとの基本の部分に基づいた形の具体化をこれから進めていきますので、これまでと同じ委員会という形ではありませんけれども、個別にご確認、ご相談をさせていただく機会を別の形で設けさせていただくほうがいいのかなと、特に今日活発なご意見を頂いたこともありまして、その思いを強くしたところもありますので、引き続きお世話になることがあるかと思えます。よろしく申し上げます。最後にお願いで終わって恐縮ですけれども、ご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。